



外来でリハビリを受けられていて、「もうすぐリハビリの期限がきます」、「リハビリが終了になります」と言われたことはありませんか？リハビリの期限は、五つの疾患によって決められています。

では、期限が過ぎたらリハビリ出来ない？一概にそうではありません。例えば介護認定を受けている方は、介護保険の通所リハビリテーションは可能ですし、自費負担によるリハビリも継続できます。運動器リハビリテーションは発症・手術・急性増悪から 150 日以内が算定上限です。同じように、脳死血管疾患は 180 日、心大血管疾患は 150 日など上限が決められています。これらは医療保険で算定できる期間を示すものですが、場合によっては期限を超えても「月 13 単位」まで算定可能なこともあります。期限内で回復状態になることが望ましいですが、期限を超えてリハビリが必要な場合など、医師やリハビリスタッフに相談してみてください。

厚生労働省が定める「標準的算定日数」(法定上限)

医療保険での疾患別リハビリテーションには、厚生労働省告示により以下の算定上限日数が定められています。

リハビリ区分	標準的算定日数	主な対象
運動器リハビリテーション	150 日	骨折、人工関節術後、関節疾患など
心大血管疾患リハビリテーション	150 日	心筋梗塞、狭心症、心臓手術後など
脳血管疾患等リハビリテーション	180 日	脳梗塞、脳出血、脳外傷など
廃用症候群リハビリテーション	120 日	入院・安静による機能低下
呼吸器リハビリテーション	90 日	肺炎後、慢性呼吸器疾患など



期限を超えてもリハビリが可能なケース (13 単位ルール)

厚生労働省告示では、標準的算定日数を超えても、以下の条件で月 13 単位まで算定可能とされています。

- 医学的に改善が見込めると医師が判断
- 厚労省が定める基準に該当する患者（難病指定の疾患等の患者）
- 記録・評価に基づき継続が必要と認められる場合

これは心大血管・脳血管・運動器・呼吸器の各リハビリに共通して規定されています。

- 実際には疾患ごとに 90 ～ 180 日の法定上限がある
- 上限日数を超えても、条件により 月 13 単位まで算定可能

これらはすべて厚生労働省の診療報酬告示に基づく制度であり、医療保険で算定できる期間を定めたものです。

期限に関しては医師・リハビリスタッフへご相談ください。

文：肝付町立病院 リハビリ室

お問い合わせ先 肝付町立病院 ☎ 0994(67)2721